

総務企画防災常任委員会行政視察報告書

萩原久雄

○神奈川県湯河原町

パークPFIを活用した万葉公園の再整備について

【所見】

湯河原温泉は、初めての訪問であった。東海道線をくぐり、温泉街へ向かう道中では、風情があり、高級感漂う文豪の温泉で、歴史観にあふれる素晴らしい街であると感じた。しかしながら、観光産業が低迷し、平成2年846万人の観光客数、宿泊者133万人がピークであり、平成30年では、観光客数が364万人、宿泊者数が69万人まで減少している。メインの産業が半分以下になったことで再整備が必要になった。

老朽化した公共施設の改善や機能の見直しが平成26年度からスタートした。官民連携支援事業で「温泉場の屋外リビング&ガーデン」「知の温泉場」など万葉公園の地域資源を活用した観光まちづくりに住民参加型PPP事業スキームが立案検討された。平成29年度から、都市公園の魅力と利便性の向上を図るために、公園の整備を行う民間の事業者を公募し選定する制度、パークPFIの導入検討が始まった。令和3年度まで4年間かけ、設計、工事、条例改正等が実施された。

万葉公園を徒歩で視察させていただいたが、リピーターとして再訪問したいと思う場所であった。特に「湯河原惣湯」は、森を感じながら、湯で緩み、食で満たされ、樹々の間や川のほとりに点在するテラスで、思い思いに豊かな体験ができる場所である。食事付きで5,500円、食事なしで2,600円源泉かけ流しの温泉、足湯、さらに川のほとりでwifiを利用してのリモートでの仕事などが可能である。古くから静養の場として愛されてきた公園が時を経て大人の新しいリトリートに生まれ変わった、成功した例だと思う。

パークPFIは公園管理者、民間事業者、公園利用者それぞれにメリットが生まれる事業である。「思いと経験を持った民間事業者」を探すのが重要である。全国では50以上の事例がある。是非、足利市でも研究の価値はあると思う。

例えば、織姫山周辺の公園を利用した事業である。すでに蕎麦屋が有名になっている。ホワイトパレスから、織姫神社の参道に沿った階段脇に「湯河原惣湯」のような遊歩道と足利のランドスケープを見ながら癒される場所を作り、もっと民間人のアイデアを利用すれば可能である。また、足利学校、鏝阿寺

周辺の事業も足利学校を見なが、勉学、研究に励めるような施設、図書館を創り、観光客を誘致する可能性はあると思う。

